

群読の教育的効果—聞き合い—

他者の読みに触れ合うことによる読みの広まり

“読む”と“聞く”とが渾然一体となるのが群読です。ここに聞くことの真髄があります。聞くことは受動ではありません。次の表現への準備であり、そのための沈黙であり、緊張です。聞くことが疎かにされがちな今日、級友の声に真剣に耳を傾ける瞬間は貴重です。

日常的に、しかも長い期間にわたり一緒にいたはずの子どもたち同士でも、群読をすることによって級友の声を新鮮なものとして聞き、級友の声の存在を新しく認識することがあります。「○○さんの声が響いておりすばらしかった」などの感想を漏らすことがあります。

同時に、自分の予想しなかった読みに出合い、作品解釈に新しい視点を得ることもあります。「そんな読みがあったのか」と、自分の世界を開かれる思いをする子どもが現れます。これが、群読における「聞き合い」です。この聞き合いの姿を大事にしたいものです。

聞き合い成立の条件

○ 全員が全編を読むこと

群読をすると、互いの声をよく聞き合うようになります。聞き合うというのは、発表をしているグループ内でも、また、発表をするグループと聴取するグループのグループ間でもということです。したがって、指導上の留意点は、それほど要しないのですが、一つだけ挙げるとすれば、全員が全編を読むこととなります。

自分が読み担当部分だけを読むではありません。全編を読むのです。そして、自分の読み担当箇所に来たら、自然に声になって外に出るようにするのです。全編にわたって緊張を漲らせるということです。

読み分かちと読み担い

(1) 読み分かち—どこで区切るかの問題

① 内容に関するもの

場面転換（段落の改行）、登場人物の交替、作者の視点・語り手の位相の変化

② 表現に関するもの

漸増的に盛り上がる部分、部分的な強調部、対句的表現・並立表現、リズム

(2) 読み担い—誰が読むかの問題

① 読み手の数に関するもの

単声・・・一人の登場人物の台詞、話の筋を語る部分、静かな情景描写、固定的な役割

複声・・・集団を示す部分、漸増的に盛り上がる部分、強調部（クライマックスの部分）

② 読み手の声の質（性別）に関するもの

男声・・・盛り上がる部分、強調部、男性的な感じの文脈

女声・・・静かな情景描写、静かな筋を語る部分、女性的な感じの文脈

混声・・・強調部、ある効果を生み出そうとする場合